水道・工業用水道・下水道の民営化を進めつつある宮城県

みやぎ型管理運営方式の区域図

村井 嘉浩知事が推進

みやぎ型管理運営方式 対象９事業

（事業区域が重なる、水道用水供給２事業、工業用水道３事業及び流域下水道４事業）

○水道用水供給事業（２事業）

大崎広域水道事業
仙南・仙塩広域水道事業

○工業用水道事業（３事業）

仙台北部工業用水道事業
仙塩工業用水道事業
仙台圏工業用水道事業

○流域下水道事業（４事業）

仙塩流域下水道事業
阿武隈川下流流域下水道事業
鳴瀬川流域下水道事業
吉田川流域下水道事業

○流域下水道事業（３事業）

北上川下流流域下水道事業
迫川流域下水道事業
北上川下流東部流域下水道事業

みやぎ型管理運営方式（案）　現状との違い

宮城県

【現状】

○**短　期**　：業務期間4～5年
民間事業者における従業員の雇用が不安定、人材育成が困難

○**小規模**　：各事業を個別に委託しており、スケールメリットの発現効果が少ない

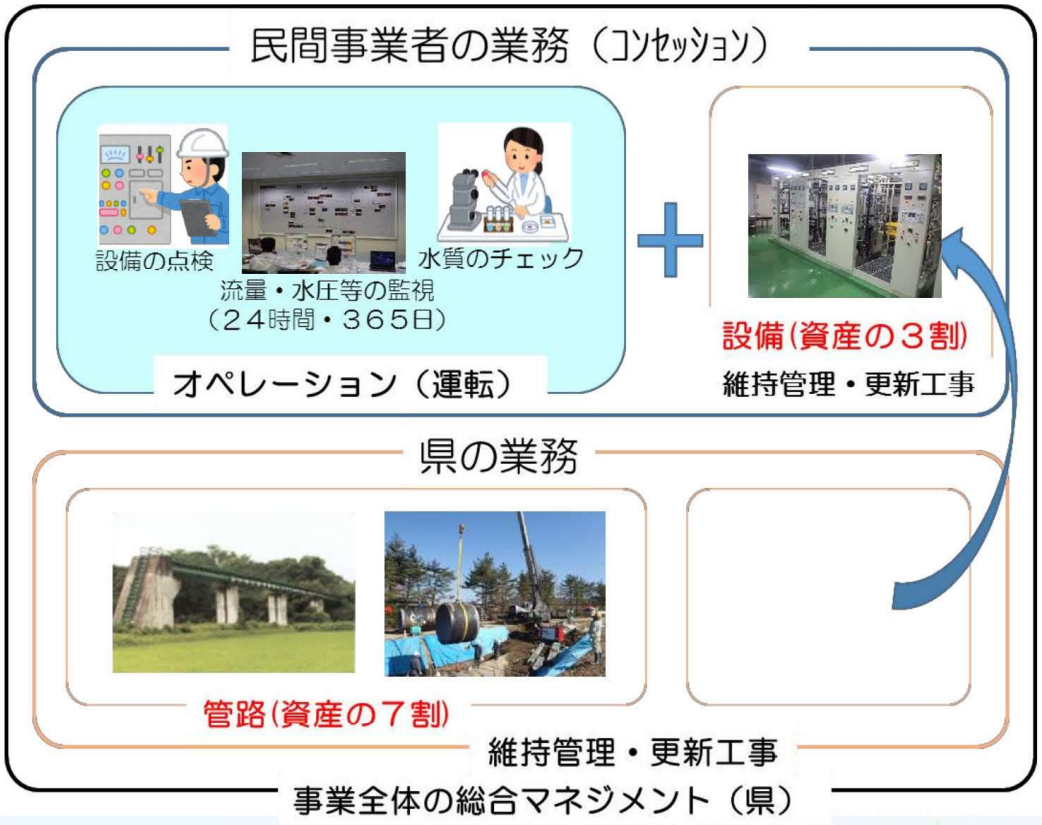
○**限定的**　：受委託の関係から行政が決定権を持ち、民間ノウハウの活用が限定的

【みやぎ型】

○**長　期**　：期間20年
民間事業者における従業員の雇用の安定、人材育成、技術継承・革新が可能

○**包括化**　：上・工・下3事業一体によるスケールメリットの発現効果が拡大

○**官民協働**　：コンセッションにより、民間ノウハウの自由度が拡大

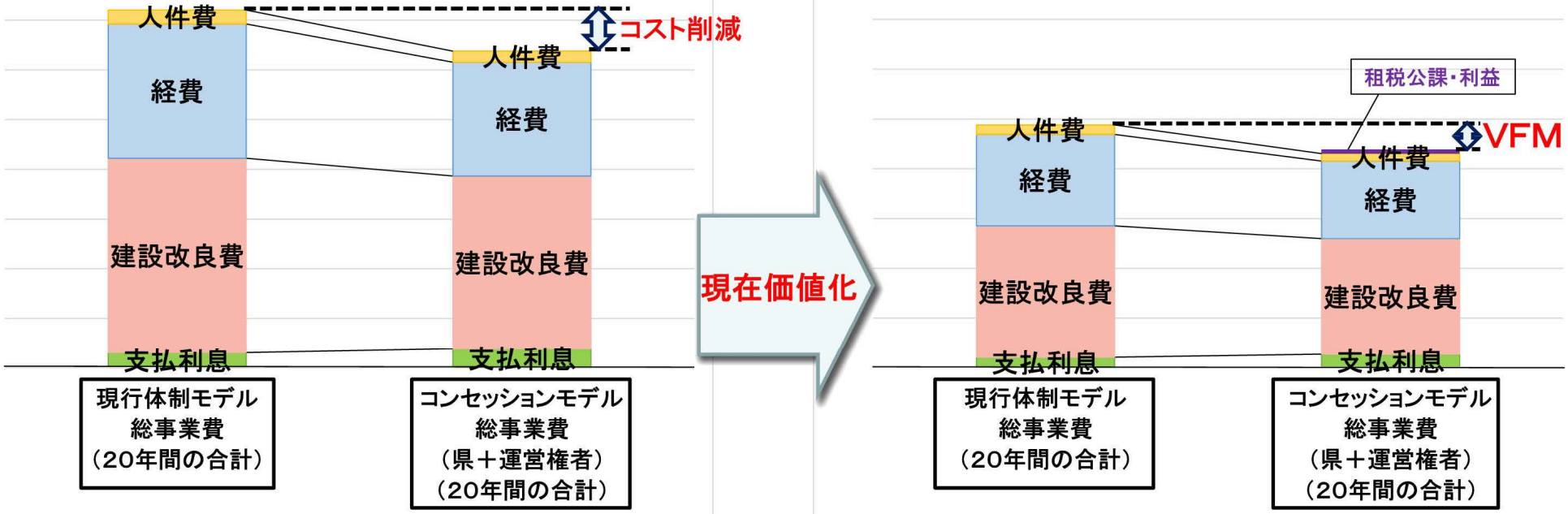


『みやぎ型』で期待される効果

宮城県

■『みやぎ型』を導入することで，維持管理にかかる費用や設備等の改築にかかる費用の**コスト削減**が期待されています。

■これによって，**料金上昇の抑制**や**経営の安定化**の効果が期待されています。



【現行体制モデルとコンセッションモデルの総事業費を比較】

コスト削減額：335億円～546億円

【コスト削減額を現在価値に換算，租税公課・利益を控除】

VFM：166億円～386億円
（7．4%～14．4%）

※上記数値は，導入可能性等調査に基づき県が試算した期待値であり，実際のコスト削減額及びVFMは，運営権者となる民間事業者からの提案により確定する。

ＶＦＭ（バリュー・フォー・マネー）

ＶＦＭ ＝ （コスト削減額（現在価値換算後））－（租税公課）－（利益）